



# 大久保駐屯地創立66周年及び 第4施設団創隊62周年記念行事



一糸乱れぬ旗手動作



新隊員の力強い行進



駐屯地司令式辞



訓練展示



観閲行進



装備品展示



装備品試乗



音楽演奏



三施太鼓の演舞

大久保駐屯地（駐屯地司令 吉春隆史 陸将補）は、令和5年5月28日（日）、真夏を思わせる五月晴れのもと、大久保駐屯地創立66周年及び第4施設団創隊62周年記念行事を開催しました。

今年度は、式典に国会議員、自治体首長の方々をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜るとともに、約6000名の地域の方々にご来場いただきました。

吉春司令は記念式典の式辞において、記念行事を挙げていただける喜び、地域の方々のご支援・ご協力への謝意、伝統を築き上げてきた諸先輩方への感謝、最近の国内外情勢を踏まえた隊員に対する要望と駐屯地としての決意を述べ、参列する隊員は、多くの「ご来賓の方々を前に、自衛官としての自覚と決意を新たにしました。」

その後、観閲行進、訓練展示、装備品試乗、装備品展示、音楽演奏等により、自衛隊を身近に感じていただくとともに、「ご来場者からは、「普段見ることのできない自衛隊の車両を見ることができ、満足しました。」、「自衛官の活躍がカッコよかった。」等の多くの意見をいただきました。また、4年ぶりに祝賀会食を開催し、各協力会等の皆様との交流を深めることができました。

来年も皆様方にご満足いただけるように充実した記念行事を開催する所存です。



射撃訓練



銃授与式



入隊式での宣誓



修了式（優秀隊員表彰）



10km行進



体力検定

### 新隊員前期教育修了

第7施設群教育隊は、新隊員103名に対し、令和5年3月下旬から第20期一般陸曹候補生課程教育を実施して、6月下旬に約3カ月間の教育を修了しました。

新隊員は、初めての自衛隊生活で不慣れた環境の中、自衛隊の基礎を学びつつ、将来の陸曹となるべく自覚と自信を付与されました。

今後、職種の一員となるべく全国の各職種部隊において後期教育を受けることとなります。前期教育で培った、体力・気力・同期との絆を礎として更なる活躍を祈念します。



発行：大久保自衛隊協力会  
陽融会  
大久保駐屯地桃友会  
45会  
編集：第4施設団本部  
第1科広報班  
印刷：進見堂印刷

駐屯地司令要望事項  
地域から信頼  
される駐屯地  
紙面紹介

- 1面  
・大久保駐屯地創立66周年及び第4施設団創隊62周年記念行事  
・新隊員前期教育修了  
・令和5年度大久保駐屯地感謝状受賞者紹介  
・奈良県五條市長感謝状贈呈式

- 2面・3面  
・各部隊訓練等記事

- 4面  
・部隊長随筆  
・最先任の一言  
・令和5年度方面隊統制演習場春季整備  
・定年退官者紹介  
・防衛モニター終了式  
・優秀隊員紹介  
・編集後記

大久保駐屯地広報紙  
「やましろ」  
1四半期号 No 2 1

## 奈良県五條市長感謝状贈呈式



感謝状贈呈

令和5年4月24日（月）、奈良県五條市役所において、平成23年紀伊半島大水害復旧対策や鳥インフルエンザに対する災害派遣、五條市役所職員の体験入隊等に対し、第7施設群が五條市長から感謝状を贈られました。

第7施設群は、引き続き、即応態勢を万全にして各種訓練等に励んで参ります。



記念撮影

## 令和5年度大久保駐屯地感謝状 受賞者紹介

| 大久保駐屯地感謝状受賞者 |                                    |   |
|--------------|------------------------------------|---|
| 大久保自衛隊協力会    | 青年部<br>久御山協力会<br>宇治田原協力会<br>京田辺協力会 | 部員<br>地域委員<br>幹事<br>理事  |
| 陽融会          | 宇治市議会議員<br>大久保駐屯地桃友会               | 宇治市議会議員<br>副会長  |
| 45会          | 副会長兼事務局長                           |   |
| さきがけ会        | 会 員                                |   |
| 岐阜分屯地温故会     | 会 長                                |   |
| 敦賀防衛懇話会      | 会 長                                |   |
| 豊川施設母隊豊施会    | 広報理事                               |   |
| くりにくま会       | 副会長                                |   |
| 富山駐屯地OB会     | 会 員                                |   |
| SHIKI会       | 役 員                                |   |
| 自衛隊和歌山協力会    | 副会長                                |   |
| 十津川村役場       | 村 長                                |   |
|              |                                    | 吉村 安広<br>内田 重信<br>辻井 基博<br>小西 敏照<br>中村 麻伊子<br>末松 裕章<br>橋本 健三<br>出島 修治<br>田村 信夫<br>橋田 俊二<br>橋本 敦夫<br>吉田 昇二<br>上榮 哲生<br>沖田 信一<br>三ツ井 徹<br>小池 佳史<br>小山手 修造 |

# 各部隊訓練等記事



体重測定



受付



幹線道路整備



砕石生産



歯科検診



尿検査



弾着地進入道の測量



特大型ダンプのダンプアップ

## 第7施設群

第7施設群は、4月中旬に日本原演習場及び長池演習場において令和5年度方面隊統制演習場春季整備に参加しました。日本原演習場においては、第304施設隊及び第102施設器材隊の一部の配属を受け、第4施設団整備隊を編成し、道路の不陸修正、敷き均し、転圧等の幹線道路整備及び剣山採石場の開設・運営を担任し、演習場の長期安定使用に寄与するとともに、第304施設隊を主体とした技術指導部により、方面直轄部隊に対する技術指導を実施して、方面隊の施設技術能力の向上を図りました。

また、群独自の施策として、弾着地進入道の補修要領の案出を通じて、測量技術及び設計能力の向上を図りました。現地測量結果に基づき、各中隊等で道路の設計、施工要領について検討し、第4施設団整備隊長（群長）に、それぞれが案出した施工要領を報告しました。第382施設中隊が第102施設器材隊の指揮下に入り、長谷川砂防堤内の浸濫を行い、本整備を通じ機械操作能力及び車両操縦能力の向上を図るとともに、訓練基盤の維持・拡充を図ることができました。

## 大久保駐屯地業務隊

大久保駐屯地業務隊は、駐屯地の生活の縁の下力持ちとして、各種サービスの提供に努めています。今回は、隊員の健康支援を担当する衛生科より、先々月実施した定期健康診断の結果からの考察を紹介いたします。今回の定期健康診断受検者の総合判定の人数と割合は以下の通りです。5月末時点で980名が受検（受検率は91%）、その中でA判定は約66%、B判定は約26%、C判定は約8%、C判定は0%となりました。

例年と横ばいですが、以下のような隊員各人の努力での現状維持が伺えます。前回の定期健康診断及び12月の生活習慣病検診の結果に対し、再検査や受診の早期対処・運動習慣・食事の考慮など、健康的な生活の継続、なお要健康増進隊員（腹囲・身長と体重の比率・脂肪率で指定）の該当者は、受検者全体の13.5%でした。特に本部勤務者等、デスク業務で多忙傾向の部隊の割合が多いです。健康管理は、災害派遣等の迅速な出勤準備に直結するほか、個人の将来の生活や昇任試験・海外派遣の人選にも関わります。今後も健康の維持・増進を目指し、継続的な健康管理に努めましょう。



特殊武器防護



野外衛生及び救急法



第3施設大隊入場



スタンド構築



天幕展張



野外通信機の取り扱い



三施設太鼓の演舞



三施設太鼓の演舞

## 第3施設大隊

第3施設大隊は、令和5年5月21日（日）、千僧駐屯地で行われた第3師団創立62周年・千僧駐屯地創設72周年記念行事に大隊長以下人員134名、車両16両で参加し、隊員に誇りと充実感を付与しました。また、記念行事の準備段階から施設大隊を核心として千僧駐屯地駐屯部隊と協同してスタンドを構築し式典基盤の確立に寄与するとともに、協同運搬要領及び施設技術能力の向上を図りました。

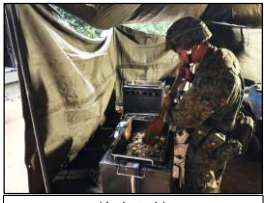
さらに、観開式・観開行進において大隊は、師団唯一の施設科部隊として07式機動支援橋等による行進をして、部隊の精強性を誇示しました。観開式後の音楽イベントでは大隊固有の京都三施設太鼓をはじめ、師団各部隊の姫路白鷺太鼓、福知山酒吞鬼太鼓及び信太菊水太鼓の太鼓チームが集まり、第三師団太鼓隊として総員40名で「武將」をはじめ、合同曲、チーム曲を演舞し、募集・広報活動の一助とするとともに、地域住民及び関係機関の信頼と理解を獲得し、防衛基盤の更なる拡充に寄与しました。

## 第104施設直接支援大隊

第104施設直接支援大隊第2直接支援中隊は、令和5年5月中旬の5日間、令和5年度第1回中隊訓練を実施しました。訓練内容は、全隊員を対象とする「野外衛生及び救急法」、「12・7m重機関銃の取り扱い」と、若年隊員を対象とする「特殊武器防護」、「野外通信機の取り扱い」、「天幕展張要領」を実施しました。「野外衛生及び救急法」については、救急法の基礎となるドクトリン、根拠及び医学基礎知識についての座学を実施した後、検定の要領で各課題を演練しました。

特に2課題においては実践での想定を各人にイメージさせて実施しました。また、若年隊員に対する「特殊武器防護及び「野外通信機の取扱い」においては、反復演練により練度の向上を図り、「天幕展張要領」では各天幕の特性を教育しつつ展張要領を訓練しました。季節外れの暑さの中での訓練でしたが、1件の事故なく、各人の練度向上を図ることができました。第2直接支援中隊は、今後も中隊長を核心に要望事項「和」を具現すべく、中隊一丸となり更なる精進を重ねて行く所存です。

第 3 0 7 ダンプ車両中隊



炊事訓練



新米分隊長の地点指示

第307ダンプ車両中隊は、令和5年6月上旬の5日間、令和5年度第2回中隊訓練を実施しました。

本訓練は、支援部隊のニーズに沿ったダンプ車両による施設支援を各地形・気象・敵の妨害下において実施し、中隊の練度の向上を図るとともに、敵の衛星「ドローン」等、新領域に係る新たな部隊行動について検証しました。

当初、「各種状況下における資材輸送」では、大久保駐屯地から航空自衛隊経ヶ岬分屯基地(京丹後市)までの移動距離約180Kmの道のりを安全確実に運行して長距離車両進能力の向上を図りました。

また、本訓練では各分隊長に若手の陸曹を指名して分隊長としての職能、部隊指揮能力の向上、責任感の醸成を図りました。

新米分隊長は不慣れながらも、自ら考え積極的に行動し時々指導陸曹の指導に真摯に向き合い隊員と共に任務を遂行しました。

中隊本部は、野外炊事訓練を実施して、悪天候に見舞われながらも管理班長の指導の下に、想像以上のふっくらとした炊き立てご飯と絶品のおかずが提供され、一時の至福の時間を過ごしました。

中隊は、今後も計画的に練成訓練を行って、車両専門部隊としての練度及び全般支援部隊としての任務遂行能力の向上を図っていきます。

第 1 0 2 施設器材隊



道路の肩部法面復旧工事



指揮所の開設・運営

第102施設器材隊は令和5年5月中旬の5日間、長池演習場及び大久保駐屯地において第1次隊野営訓練を実施しました。

本野営訓練は、隊長及び各中隊長が本年3月に着任以降初の隊野営訓練であり、各指揮官が部隊の現状を把握し、その練度を向上する貴重な機会となりました。

訓練を前段及び後段に区分して、前段は有事を想定して駐屯地から演習場へ前進して集結地を占領し、野外指揮所を開設するまでの一連の行動を隊統制で演練しました。

引き続き、後段は訓練は、各中隊長がそれぞれ計画し、本部付隊は隊の指揮・通信所を維持・運営して隊長の指揮を補佐、架構中隊は駐屯地内で92式浮橋の架設や門橋(フェリー)の組立・運航を練成しました。

また、特殊器材中隊は演習場の損傷した道路の肩部法面や側溝の復旧工事を実施して、中隊の能力向上を図りました。

第102施設器材隊は、本野営訓練を通じて隊本部や各中隊の練度向上を図るとともに、訓練の一環で演習場整備を行って、訓練基盤の維持に寄りました。

第 4 施設団本部付隊



名木川の清掃



駐屯地内の清掃

第4施設団本部付隊は、令和5年5月上旬の4日間、団本部付隊環境整備週間として、大久保駐屯地前を流れる名木川及び駐屯地内の草刈り及び清掃により環境を整備しました。

今回の環境週間としての目的は、大久保駐屯地の前を流れる川を清掃することにもなること、令和5年5月28日(日)に行われた大久保駐屯地創立66周年及び第4施設団創設62周年記念行事に地域から大勢の方々に来ていただいた感謝と駐屯地内を見ているだけでもなすの気持ちを含めて実施しました。

この梅雨前の時期は特に雑草も伸び草刈機での雑草の除草も雑草が機械に絡まる程、伸びていました。

名木川の側面は、傾斜角が急で時には、足を滑らせそうになりつつも、隊員個々が協力し合い事故もなく、円滑に草刈り及び清掃並びに環境の整備を終えることができました。

今後も、地域及び駐屯地に対して感謝をし、環境の整備を実施していきたいと思っております。

第 3 9 7 会計隊



証拠書類状況



証拠書類点検風景

第397会計隊は、令和5年4月下旬に令和4年度最終支払を実施しました。

第397会計隊については、今津駐屯地及び大津駐屯地を派遣隊にもち、3駐屯地分の物件費及び旅費の支払業務を担っています。

令和4年度の支払総額については、約1億5000万支でした。

また、大久保駐屯地の給与業務も併せて実施しており、支出官払で銀行で支払う必要はなくなりましたが、令和4年度給与業務の支払総額約68億円の業務処理を実施しました。

会計隊としても毎月の支払状況を会計検査院に証拠書類として提出しており、令和4年度最終の証拠書類として14冊の書類として提出しました。

通常月の証拠書類については、455冊であり、通常の3倍の業務を年度末業務として実施し、会計隊の人員を総動員して点検し、適切な計算証明業務が実施できるように万全な対策を講じています。

今後とも部隊のニーズに最大限寄与できるように、各部隊担当者との密接な連携、各部隊への会計情報の共有及び会計隊隊員の実務能力向上に努めていきます。

第 3 1 8 基地通信中隊大久保派遣隊



端子盤への接続



記念行事回線の構成

第318基地通信中隊大久保派遣隊は、大久保駐屯地創立66周年及び第4施設団創設62周年記念行事へ参加し、式典、受付等のために業務システム回線6回線・臨時内線電話5回線を構成しました。

また、第4施設団隷下部隊長の執務場所への業務システム回線7回線の提供を実施しました。

各隊舎等への回線構成のために担当者等と綿密に調整して自隊でのミーティングを、実施し、派遣隊全力で回線を構成しました。

また4月には、第104施設直接支援大隊本部事務室の改装支援として、仮設事務室と改装後の事務室への各種システム、内線電話の移設・設置支援を部隊の要望に応えつつ実施しました。

派遣隊は、夜間・休日無人化による体制移行後も基地システム通信基盤が24時間使用できる通信環境を維持し、使用部隊、使用者の皆様への影響を極限にするため部隊の基本的行動、隊員の基礎動作を演練し、所在部隊の指揮の命脈の通信確保に貢献して参ります。

第 3 後方支援連備隊 第 1 整備大隊 施設整備



重機関銃の設置



指揮所構築のための掘削

第3後方支援連備隊第1整備大隊施設整備隊は、今年度9月に実施される大隊訓練受閲に向け、青野ヶ原演習場において隊訓練を実施するとともに、5月には大隊訓練に参加して、今年の3月に着任した施設整備隊長のもと部隊の練度向上に励んでおります。

特に、5月に実施された大隊訓練においては、師団の防勢的行動における施設整備隊の行動について演練し、大隊統制による機動及び段列地域域の安全化、展開地における警戒自衛戦闘や上空からの監視を意識した対空偽装下での小銃用掩体の構築及び小型シヨベル・ドーザを使用した半地下の指揮所構築について練度の向上を図ることができました。

整備小隊は、段列地域進入後、夜間において師団施設整備所を開設し、夜間の特性を克服して速やかに施設器材の整備基盤を確立させることができました。

今後、暑さが増していきますが、熱中症に気をつけながら隊員一同、部隊の練度向上に励んで日々成長していきます。

部隊長随筆 最先任の一言



第3施設大隊長 2等陸佐 林田 賢明

「その時、自信を持って任務を完遂できる大隊を目指して」

第3施設大隊は、近畿2府4県を担当する第3師団唯一の施設科部隊であり、令和4年8月に大隊長として着任以来、部隊長としての責任・役割を肝に銘じ、「明るく、楽しく、前向きに」をモットーに、師団の任務達成に貢献できるように、隊務を運営しております。自衛隊における隊務運営の主軸は教育訓練であり、第3施設大隊の特性を踏まえ、効果的・効率的な教育訓練を行い、隊員全員が自信を持って任務を完遂できる大隊を目指して、日々精進しております。



第7施設群 最先任上級曹長 准陸尉 小林 大輔

「規律の維持」

平素から第7施設群に対して格別なる「厚情及びご協力を賜り心から感謝申し上げます。組織で行動する我々自衛隊にとって「規律」は生命であり、規律のない部隊は群集に過ぎず、任務を達成する事は出来ません。部隊での服務指導において、規則の説明や違反した際の処罰の量定といった知識について教育で終わる事が多いのではないのでしょうか。「これはするな」といくら指導しても、隊員が押し付けられていると思えば、組織に対して窮屈さを感じたり、卒からはみ出しても気にしない者が現れるはずです。「なぜこの規則が必要なのか」の意義を指導者は説明し、それに対して自分自身で理解し、主体的に実践出来る自衛官を育てることが大切です。近年では、価値観の多様性が尊重され、部隊には様々な考え方を抱いた隊員が存在します。個人として「どうしたいか」を優先するのではなく、社会人、自衛官として「どうあるべきか」という自覚と責任感、そして、それらを受け入れる事の出来る心を持った隊員を、愛情を持って育てる事が必要です。最後に、隊員が自ら規律を維持し、誇りを持って任務に邁進できるように、厳しくも情愛のある部隊にしていきたいと思います。

令和5年度方面隊 統制演習場春季整備

令和5年4月上旬から約10日間、大久保駐屯地所在部隊は、あいは野演習場及び日本原演習場の機能向上・維持のため、整備する施設器材を駆使しながら一丸となって整備を実施しました。自分たちの道場である演習場を自ら整備するという高い意識をもって隊員それぞれが雨や暑さに負けず取り組み、今までもより良い演習場になりました。今後自分たちの整備した道場で訓練を実施して練度向上を図り、あらゆる事態に備えます。



編成完結式



碎石の敷き均し



ガラバゴスによる碎石・積載



炊事



湿地ドーザによる敷き均し



ロードローラーによる道路転圧

定年退官者紹介 優秀隊員紹介



第104施設直接支援大隊 整備隊

陸曹長 清水 淳一

退官 令和5年4月1日



大久保駐屯地業務隊 補給科

陸曹長 原岡 幸太郎

退官 令和5年6月1日

防衛モニター終了式

令和5年4月26日(水)、令和5年度防衛モニター終了式が行われ、駐屯地司令から防衛モニターを任期満了された藤森佳人氏に防衛事務次官からの終了証が伝達されました。藤森氏から「防衛モニターとして自衛隊、駐屯地に協力することができ、嬉しく感じました。」「身近な人にも自衛隊を広めることができました。」「等のお言葉をいただき、防衛モニターとしての活動を終了されました。更なるご健勝をお祈り致します。



終了証の伝達



記念撮影

令和5年4月2日(日)、大阪府南河内郡千早赤阪村にあるB&G海洋センターにおいて「第67回西日本銃剣道選手権大会」が実施され、女子個人の部に参加した第7施設群本部管理中隊 木村 栄鈴3曹が、準優勝の成績を収めました。また、同年4月23日(日)、日本武道館において「第67回全日本銃剣道優勝大会」が実施され、団体戦女子の部に第3位の快挙を成し遂げました。



編集後記

大久保駐屯地広報紙「やましろ」のご愛読の皆様、いつもありがとうございます。昨年引き続き今年も大久保駐屯地記念行事を一般開放で開催し皆様とお会いできて、とても嬉しく感じました。新型コロナウイルス感染症は5類に移行しましたが、油断せず各種訓練に励んでいきます。最後になりますが、令和5年度も引き続き、大久保駐屯地広報紙「やましろ」に対し、ご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

大久保駐屯地 Twitter QRコード